

令和5年度中津分校の取り組み（総合的な探究の時間・学校行事等）

昨年度は、1年生・2年生を中心にコーヒー豆販売やドリップバックコーヒーの販売、なかつ保育園との交流で、さつまいもの栽培、焼き芋販売を行い、収益の一部で絵本をプレゼントしました。今年度の総合的な探究の時間は、各学年のねらいを明確にし、学校全体として系統立てて行います。学校行事も、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる行事にしたいと思っています。

○総合的な探究の時間のねらい

総合的な探究の時間

中津の魅力
広げた隊





中津の魅力！

総合的な探究の時間での、3年間の授業の流れについて、何をを目指すのかを説明していきます。

1年生について
テーマは”知る”

地域に実際に足を運んでとにかく知ることを中心に据えて、探究していく。



具体的な内容

中津の産業を一緒にやる

紀州備長炭焙煎珈琲を作り、販売する。
デザイン・販売方法などを計画する。
商売を考え、持続可能とは何かを考える。

自分の地域を比較する

就学旅行の事前学習を通じて自分の地域の良さを考える。
修学旅行先の高校生と交流する。
事前学習として現地の高校生とオンラインで交流する。



2年生について テーマは”発信する”

具体的な内容

中津の産業を一緒にやる

紀州備長炭焙煎珈琲を作り、販売する。
デザイン・販売方法などを計画する。
商売を考え、持続可能とは何かを考える。

自分の地域を比較する

就学旅行の事前学習を通じて自分の地域の良さを考える。
修学旅行先の高校生と交流する。
事前学習として現地の高校生とオンラインで交流する。

3年生について テーマは**“広げる”**



具体的な内 容

中津の魅力をプレゼンする

中津分校、中津の魅力を中学校にプレゼンしに行く。日高郡内の中学校へ訪問してプレゼン。
生徒の出身校へオンラインプレゼン。

地元広報誌に参加する

地元広報誌や地元新聞に協力してもらい、高校生記者のページを作らせてもらう。
高校生が地元を取材して記事にして広げていく。

目標は何か

情報を正しく知る

ネットの情報だけでなく、実際に目で見えて体験してから情報を得る大切さを学ぶ。

地域課題を考える

地域が抱える問題を交流を通じて当事者意識を持って考えられるようになる。

比較して考える力

他の地域と比較することで良さを発見していく。
比較して考える力を身に付けていく。

発信力

学んだことをどう伝えられるかが出来るか試行錯誤しながら学ぶ。

稼ぐ力

実際に販売することを通してお金を稼ぐことの難しさ、商売について体験していく。

答えのない問

正解がない問題に立ち向かうことで答えがない問に向き合っていく姿勢を身に付ける。

授業方法

3年間を通して学習していく意識を持ってもらう。

学年の枠にこだわりすぎずに、後輩にやったことを伝えていく交流をしていく。
担任・副担を含め全体で探究活動をサポートしていく。



- ・なかつ保育園との交流（さつまいも苗植え なかつ保育所の畑）

今年も販売目指しイモ植え

中津分校生となかつ園児交流



分校生と園児と一緒に
サツマイモの苗植えを体験

日高高中津分校の1年生17人が25日、総合学習の一環で地元のなかつ保育園児と交流。今年も園内の畑にサツマイモの苗を植え、秋に収穫と販売を目指す。

1歳から5歳までの園児37人が参加。JA紀州の女子職員2人から苗の植え方を教わったあと、中津分校

生が園児に優しく接しながら手を取って1本ずつ苗を植えた。

昨年は苗から育てたサツマイモを秋に園児と分校生と一緒に収穫し、道の駅S anPin中津で焼きいも販売して地元の人到大盛況となった。今年も収穫から販売する予定にしている。

- ・授業の一環として、ビブリオバトルに挑戦しています。県大会出場、その先の全国大会を目指します。

本を通して人を知る

日高中津分校 ビブリオバトル学習

日高高中中津分校で26日、現代語の授業の一環として1年生2人が「ビブリオバトル」について学んだ。

現代語は同校独自の選択授業で、選択しているのは坂口琴音さんと細川美緒さん。2人とも本が好きで、今回は近年全国的に盛んになっている本のプレゼンイベント「ビブリオバトル」の勉強で、12月の御坊大会に向け、コツを学んだ。

講師は御坊市立図書館司書の後藤貴志さん。まず「人を通して本を知る、本を通して人を知る」というビブリオバトルの理念を解説し、「ゆっくり、はきははでもらうこと、その人自身についても知る」ということを伝えた。

生徒2人は後藤さん



「20歳のソウル」について紹介する坂口さん

の出演をみてコツを学んだあと、今回は坂口さんが実演。選んだ本は市立船橋高校応援歌「市船ソウル」にまつわる実話をもとにした「20歳のソウル」（中井由梨子著、幻冬舎文庫）で「本を読んで泣いたのは初めての経験だった」と話し始め、主人公の人生について紹介。「この人は愛されるべき人だったんだと思う」など感銘を受けたポイントをしっかりと口調で語った。後藤さんは「本番まで磨き上げられるよう頑張りました」と励ました。

御坊大会は12月10日に開催。17日には県大会が開かれ、選ばれた発表者は全国大会に出場できる。また、同校は6月16日に、宮城県南三陸高校とオンラインによるビブリオバトルを予定している。

- ・6月16日
岩手県立南三陸高校の図書委員さんと、オンラインでビブリオバトルの勉強会と実際にビブリオバトルを行いました。



【総合的な探究の時間の3年生の取り組み】

日高川役場企画政策課と連携し、生徒が日高川町にある企業6社を訪問し、取材して記事を書き、日高川町広報「日高川町」に掲載していただくことになりました。

(訪問先企業)・(株)たにぐち様 ・大和歯車製作(株)様 ・ニシキ合金(株)様 ・南海果工(株)様 ・松屋電工(株)様
・エムケーシー(株)様 お忙しいなか、丁寧な対応ありがとうございました。

松屋電工様取材風景



【日高新報 6月2日付け】 なかつ保育園との交流 エシカルコーヒー豆販売の取り組み

日高川

日高川町、的じた授業で、生徒園児が手をないで入
日高中津分校はなかつ保育園を訪り、一緒に苗植え、生
育所の園児37人と一緒に苗植え、生徒園児が手をないで入
にサツマイモの苗植え、はな職員から苗の植、紅はるか100本
を行った。
地域の人も世代間交流聞いた。保育園の敷、このほか、保育園近
の交流、食育を各自地内にある畑に生徒とく、耕地でオカる中村美奈子さん

園児と一緒にサツマイモの苗植え

地球や人にやさしく
エシカルなコーヒー豆販売へ

紀州備長炭焙煎し、①を講師に招い、フエトレードの
たコーヒー豆の製造販売。中村さんは「自分い、フエトレードの
売に取組、3年目とが使用した化粧品、豆の選定やエシカルな
なる日高中津分校が、製造過程で発展途、コーヒー豆を製造販売
は24日、今年度の製造、国の児童労働、動物、自分たちの取組
を前に地球入、環境、農薬の使用や環、SNSで発信する
に、エシカル商、環境の悪影響ある、などの意見を出し合っ
品について学んだ。と知り、商品を購入した。今後は森林保護や
同校の総合的な探求、するところ、これに担当、フエトレードについ
の時間でも生徒11人がしたなと思った。学習。今年は、地域の、エシカル商品使
特産の紀州備長炭が持、販売するにつけ、組む。
統可能な産品となるよ
つ、森林保護、環境に
ついても学び、コー

保育所の園児と仲よく
日高中津分校生がイモ植え

ニッソ野菜を栽培する
高津尾の佐々木義秋さ
ん66の畑でも園児
と草植えを定してお

り、秋には一緒に収
穫、燃き販売を目指
す。

を話した。
生徒は「コーヒー豆販
売とエシカルをどう結
び付けていくかを考え

【エシカルに関する学習】

コーヒー豆販売を行うにあたって、今年度はエシカル消費をテーマに取り組みます。徳島県で開催されるエシカル甲子園出場を目指します。

備長炭珈琲からエシカル消費
日高中津分校3年生が学ぶ

紀州備長炭で焙煎した珈
琲豆の販売を続けている日
高中津分校でこのほど、同
製品のエシカル消費につい
て学習会を開き、3年生が
エシカル製品を扱う意義や
大切さを学んだ。
エシカル消費は、消費者
が社会的課題の解決や同課
題に取り組む事業者を応援
しながら消費活動を行うも
の。那智勝浦町の「IRO
DORI」という店舗で同
製品を扱う中村美奈子さん
を講師に招き、なぜエシカ
ル商品を取り扱っているの
かなどについて質問した。
中村さんは、自分が使っ
ていた化粧品が、離れた国
の子供が不当な賃金で働
き、悲惨な動物実験も行わ
れているのを知ったことを
きっかけにエシカルな商品
を扱うようになったことを

エシカル製品を扱う中村さんを
講師に学ぶ中津分校3年生

説明。生徒らは、珈琲豆も
発展途上国など公正な取
引(フエトレード)で販
売されている製品にしよう
う」といった意見が出た。
など感想を話した。珈琲
豆販売とエシカルとを結び
つけるためのワークショップ
も行い、生徒は「SNS
を活用して多くの人に知っ
てもらい、なぜ自分たちが
エシカルな商品を販売しよ
うとしているかを発信しよ
う」といった意見が出た。

- ・エシカルとは？(消費者庁HPより)
倫理的消費(エシカル消費)とは、消費者それぞれが各自に
とって社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む
事業者を応援しながら消費活動を行うこと。
2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標(SDG
s)の17のゴールのうち、特にゴール12に関連する取り組み
です。

毎日のトランペット練習で上達しました。和歌山大会では、得点ファンファーレを多く吹けるようにグラウンドの選手たちに頑張ってもらいたいです。

A black and white photograph of three young men in a music room. They are all wearing camouflage-patterned t-shirts and are playing their trumpets. The man on the left is looking down at his instrument. The man in the middle is looking towards the camera. The man on the right is looking down at his instrument. In the background, a keyboard instrument is visible on a stand.

トランペットでの応援曲を練習する日高中津の野球部員



コーヒーを入れる日高中津の野球部員と卒業生の湯上彰浩さん（左）＝いずれも日高川町西原

日高橋中津分校は、総合的学習の時間を使い、高校野球和歌山大会が開催される紀ノ井球場で「コーヒー」を販売する。野球部の2年生を中心に取り組んだ。

販売するのは、紀州備長炭の製造販売をする同校の卒業生らの協力のもと、学校がある日高町産の紀州備長炭で焙煎

観戦のお供 アイスコーヒーどうぞ

地元産備長炭で焙煎 球場で販売

氣勢を込めた。コーヒーをお供に観戦を楽しむほかに」と話す。

商品がどこにあるまで試行錯誤を重ねた。松下寛人(同)は「はじめは苦みしかわからなかった。豆の種類やひく大きさを変えて、ちょうどいい苦みと酸味に仕上げました。中西弥生(同)は味だけでなく「環境に配慮した材料や容器を使いました」と話す。

「コーヒー豆はフェアトレードの東ティモール産。焙煎の熱源は、同校卒業生の湯上彰浩さん36が手がける紀州備長炭のうち規格になったもの。竹の間伐材が原料のカップに入れて提供する。販売は14日から。水出アイスコーヒーとカフェオレ、いずれも1杯200円(税込み)。1日1000杯限定。売り上げは、紀州備長炭の材料のウバメガシの植林活動にあてられる」。

目高中津 トランペット発見

未経験の控え選手ら猛練習

日高高校中津分校の体育用具倉庫で古いトラップ
ット約20本が見つかった。13年前まで野球部員がス
タンドでの応援に使っていたものだった。コロナ禍
で鳴の物応援ができなかった時期が去り、同校は今
夏、久しぶりにトラップ応援することにした。
グラウンドの選手たちの力になればと控え選手たち
が練習に励むところ。

(下地 世)

(下地達也)



第105回 全国高校野球選手権記念
和歌山大会
主催／朝日新聞社・県高野連

トランプは2年ほど前に音楽教諭が見つけた。応援に使おうという教諭からの提案に、野球部員も喜んだ。

中津分校は生徒51人のうち9割以上が野球部員で、吹奏部などほかの部はない。トランプは「応援の担当になった部員3人と野球部に所属しない2人の生徒の5人全員が未経験者だ。匠斗さん同様は「最初

「尊敬する主将の期待に応へたい」と猛練習を重ねて、今はスラスタと吹けるようになった。

魚佳さんは3年生の最期の晴れ舞台。自分たちのして臨むつもりだ。

ほか、「モンキーターン」や2種類の「ファンファーレ」を披露する。今夏の新戦は16日に予定されている。残り2週間、めいごい準備中。

は、音より出なかつた」と話した。それでも教諭から指使いなどの基礎から教わり、放課後に毎日約二時間の練習を重ねてきた。

田さんが特に力を入れてきたのは、レパートリーの一つにあげている「アフリカン・ソフオーニ」だ。中部屋佑三将（三年）から「登壇曲吹いてくれんか」と頼まれたからだ。

「アフリカン・ソフオーニ」の

【紀州新聞 7月6日付】

(7) 2023年(令和5年)7月13日(木曜日)



賞状を手に中西君

ジェンダー川柳で最優秀

日高中津分校2年の中西君

いつまでも日本のトップは男だけ？

6月25・29 日の男女共同 参画週間(合 催)	静岡市女性会館が主 催するコンテストで、 一般とU18の2部門で ジェンターに関する川 柳を募集。今年は全国 から423人から10 87句が寄せられた。 中津分校では2年生が 文学国語の授業の一環 でLGBTをテーマにし た短編映画「カラン	中からインターネット 上の一般投票で決まる 最優秀賞に選ばれた。 審査委員長の僧侶で 落語家の露の団姫(ま るこさん)は、句の最良 後に付けられたケエス チヨンマークを大切に してほしい。感じた疑 問は打ち消さず、追求	した短編映画「カラン 優秀賞を受賞した。
---	---	--	---------------------------------

コエの花」を鑑賞し、ジェンターについて討論するなど学習。川柳づくりにも取り組み、人がコンテストに応募した。中西君は「いつまでも日本のトップは男だけ?」など3句を応募。U18部門679句の中から10点選ばれる

し続けることが世界を変え、力になると講評している。

中西君は「日本の政治はうまくいって、いそうに見えていて、いなく感じている。女性、がトップになり、新たな意見が出てくると変わるのでは」と思ったことを書いて、評価してくれてうれしそうです。」と話している。

分校生が夏祭りのお手伝い

中津保で園児を楽しませる

夜店の運営にも参加して園児を楽しませる中津分校生



日高川町なかつ保育所の夏祭り「ウキウキサマー盆踊り」がこのほどあり、日高中津分校の生徒も参加し

て園児たちをもてなした。
同校では、昨年からサツマイモの栽培や焼き芋販売、ダンスを楽しんだり園児と交流を深めており、その一環で夏祭りにも参加。保護者や職員とともに会場の提灯を設置したり、ヨーヨー釣りや輪投げなど夜のブース担当をして園児らを楽しませた。最後には盆踊りにも一緒に参加して分校生と園児が交流した。

紀三井寺球場で分校珈琲人気

日高川町名産の紀州備長炭焙煎した珈琲豆の生産者から備長炭の端材を受け、焙煎豆の焙煎方法を学ぶ取り組みが続いている。今までは、焙煎豆だけの販売だったが、今回は、販売日前日か仕込んだ水出し珈琲とアイスコーヒーとアイスフェオレを1日限定10杯分を用意。珈琲豆はエアトレードで入手したディモール産の「ロブス

日高中津が備長炭焙煎販売

タハニ」を使い、ストローは麦製、カップは竹製でプラ製品を一切使わない環境を意識したエシカル商品に取り組んだ。

初日の14日は77杯と珈琲豆7袋、本校の試合と重なった15日午前は販売開始から1時間で30杯が売れた。



紀三井寺球場で来場者に珈琲を販売する中津分校生

人のぬくもり大切なもの

高校生 坂口 琴音 15 大切な存在になってくる。

(和歌山県日高町)

最近、AI(人工知能)についてのニュースを見ない日はない。確かに、AIの開発、発展によって人々は利益を生み出している。だが、人間だからこその行為や仕事もあるのではないか。

保育士や学校の先生たちは、人間の成長にとっては欠かせない職業であり、人格を作りあげていく上では、すぐ

顔とあいさつや、レジ担当の店員さんの「ありがとうございまして」の一言は、日常で感じる人間のぬくもりであり、人を作りあげていく上で大切なものではないだろうか。

これからの社会では、AIも適度に有効活用しつつ、人間が行う業務についてその意味や必要性を考え、大切にしたいと思う。

坂口さん(中津分校)が優良賞

第35回県高校声楽コンクール

第35回県高校声楽・ピアノコンクール(県5月下旬からコンクールに向けて練習し、7月開催された校内発表会では1年生の前の1年生の坂口琴音さん(15)＝日高町原谷＝が声楽部門で優良賞を受賞した。

声楽部門には県内の高校生29人が出場。優良賞は1位から3位に次ぐ賞。

坂口さんが声楽のコンクールに出場するのは今回が初めて。課題曲は「荒城の月」で、自由曲は自分の声質に合ったイタリア歌曲「Sento nel core」(私は心に感じる)を選んだ。

5月下旬からコンクールに向けて練習し、7月に開催された校内発表会では1年生の前の1年生の坂口琴音さん(15)＝日高町原谷＝が声楽部門で優良賞を受賞した。

舞台ではピアノ伴奏に合わせ、「荒城の月」は歌詞の母音でとても緊張しながらの部分に気をつけ、「Sento nel core」は曲の雰囲気。練習以上うたえ、初めてのコンクールとしては大満足で受賞に、「初めて大です。今後は1位を目指して頑張ります」と笑顔を見せた。

坂口さんは以前から「室」に通っている。



優良賞を獲得した坂口さん



歌が好きで、オペラなどを鑑賞しているうちに「自分も舞台でうたいたい」という気持ちが強くなり、今年1月から学校近くでピアノや声楽を指導する「そらがわさがみ音楽教室」に通っている。

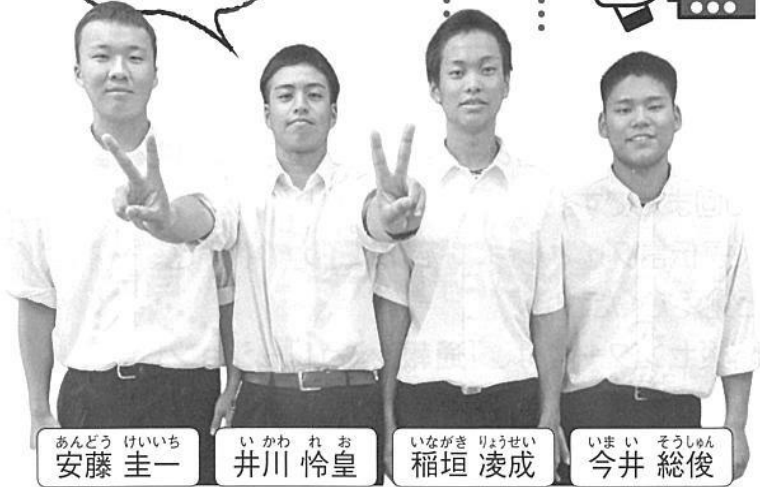
【3年生総合的な探究の時間】日高川町広報H i d a k a g a w a 1 0月号より
・日高川役場企画政策課さんと連携させていただき、3年生が6班に分かれ地元企業を取材させていただき日高川町広報に
連載させていただきました。



取材先の企業情報

会社名	株式会社たにぐち 日高川工場
所在地	日高川町和佐1030-1
本 社	大阪市東住吉区
本社設立年	1979年(昭和54年)
従業員数	約44人
事業内容	チョコを加工形成し、主にチョコ レートオーナメントを製造する工場
目 標	チョコレートを通して、お客様に喜 んでいただくこと。

私たちが
取材しました!
是非、ご一読
ください!!



日高高校中津分校 高校3年生による
地元企業紹介
株式会社たにぐち 日高川工場
Vol.1

本ページは、地域学習の一環として、日高高校中津分校の
3年生が、町内の企業を取材し、記事にしたものです。

□ 取材手記

〔チョコレート原料について〕

チョコレート原料は?と聞かれると、ほとんどの人が「カカオ」と答えると思います。しかし、カカオの実の形や中身は思い浮かべられる人は少ないと思います。(株)たにぐちでは模型が置いてあるのでカカオの原料をじっくり見て、観察することが出来ます。意外な一面が発見できるかも。

〔国内No.1〕

(株)たにぐちの最大の魅力は、全国1位を誇るチョコレートオーナメント製造です。これはケーキなどの飾りに使用されているものであり、全国のテーマパークでも採用されているそうです。形・味ともに確かな商品で、国内シェアの約6割を(株)たにぐちが手がけています。北海道から沖縄まで発送しているので、どこにいても「たにぐちのチョコレート」を食べている可能性があります。

□ 感じたこと

工場に入るとチョコレートの匂いがしたり製造現場が見えたり、とても良い雰囲気だと思いました。同時に当たり前かも知れませんが、すごく清潔感があり、安心してチョコレートを作る環境だとも思いました。そして、社員の労働環境的には残業も時期によっては、ほとんどないというお話を伺い、新入社員の方や若手の方でも仕事以外の自分の時間を確保でき、現代の風潮をいち早く取り入れてらっしゃるのだなと思いました。

□ 伝えたいこと

ケーキやチョコレート菓子を食べる時、「もしかしたら(株)たにぐちのチョコレートかも」と想像しながら食べてみてはいかがでしょうか。地元で作られている商品が全国で認められ、活躍していると思うと、なんだか誇らしい気分になれるかも。

日高川

日高川町の12月26日に徳島県で開味、エシカル甲子園は、日高高校中津分校は第5回一セッション（発表）に挑戦する。エシカル甲子園の近畿に初出場する。エシカルは環境保全、社会貢献という意、高校生が日頃の取り組みで次世代に、エシカルは環境保全、社会貢献という意、高校生が日頃の取り組みで次世代に、

エシカル甲子園 中津分校が予選通過

日高川町の12月26日に徳島県で開味、エシカル甲子園は、日高高校中津分校は第5回一セッション（発表）に挑戦する。エシカル甲子園の近畿に初出場する。エシカルは環境保全、社会貢献という意、高校生が日頃の取り組みで次世代に、エシカルは環境保全、社会貢献という意、高校生が日頃の取り組みで次世代に、

エシカルなコーヒー販売に取り組む中津分校生

近畿からは1校の姫路商業高校（兵庫）県内では熊野高校（三重）が予選通過した。中津分校は、ポスターの制作を進め、当日は堂代喜喜君と田

エシカルなコーヒー販売に取り組む中津分校生

近畿からは1校の姫路商業高校（兵庫）県内では熊野高校（三重）が予選通過した。中津分校は、ポスターの制作を進め、当日は堂代喜喜君と田

【10月24日付け 日高新報 主権者教育】

各地区より議員さんに来て頂き、交流、テーマ別にディスカッション、グループワークを行い、模擬投票を行った。

民主主義の理解深めよう

日高中津分校で主権者教育

日高高校中津分校で18日、民主主義の理解を深めるための授業が行われた。講師は県内の議員で、主権者教育は責任ある構成する若手政治の会

まちづくり等のアイデアでよかったと思う班に投票

メンバー6人で、1年生から3年生まで48人が参加。6グループに分かれ、「将来、住みたい街はどんな街か」などのテーマで意見を出し合った。各グループからは「交通の便がいいまち」「思いやりがあるまち」「子どもや高齢者が安心して暮らせるまち」などの意見が上がり、代表者が発表。選挙をイメージし、全生徒がアイデアのよかったと思う班に投票した。

【11月14日付け 紀州新聞】マスターズ甲子園応援に阪神甲子園球場に行きました。

日高中津OBが聖地楽しむ

高校野球OBが再び甲子園を目指す「第20回マスターズ甲子園記念大会」は11日と12日に阪神甲子園球場で行われ、和歌山代表で2年連続出場の日高中津OBが高知県代表の追手前OBと対戦。聖地でのプレーを楽しみ、15-4で勝利して昨年に続いて2勝目を挙げた。1997年に分校史上初の甲子園出場を果たした垣内邦夫元監督も26年ぶりに聖地に足を踏み入れ、選手として代打で出場して教え子たちを喜ばせた。

聖地でのプレーを楽しむ日高中津OBら

垣内元監督も26年ぶりベンチに

マスターズ甲子園

甲子園で岡本OB会長らが現役部員にバットを寄贈

第20回記念大会には、全国の地方予選を勝ち抜いた14チームと東、西日本代表各3チームずつの合計20チームが出場。代表チームによる7試合と、OB日本一を決める3試合を行い、1試合限りのプレーを楽しんだ。2日目の第2試合に

登場した日高中津は試合前、ベンチ前で校歌を合唱。試合は初回に1点を先制されたが、2回に4点、4回に大量8点を奪って15-4で快勝した。

対戦相手の追手前は、分校野球部発足当初に中津村を訪れて練習試合を行って以来、交流があり、当時の面監督が「いざ甲子園で対戦を」という夢がかなったことに垣内元監督も感慨深げに話した。昨年もベンチ入りの予定だったが、開会式前日に心筋梗塞で出場を断念した垣内氏は、26年前の選抜出場時とは反対の1塁側ベンチに入り、当時

のエイス・玉置（旧姓北山）信賢さんや1番打者だった横貫吉紀さんのプレーを見守り、自身も背番号1で選手として代打出場。見送り三振に倒れたが、「選抜に出た時とはまた違った感覚でしたが、日本シリーズの余韻が残る1塁側ベンチに初めて入り、久しぶりにOB達に逢えて楽しむことができた」と話した。

スタンドには現役の1、2年生部員15人も訪れ、試合前の記念撮影時にOB会から金属バットを寄贈。4期生で岡本平会長（53）日高川町は「後輩たちにもぜひここに来てプレーしてほしい」とエールを送った。

本校とともに来年の全国切符獲得

日高中津の同好会
(中井君)
が最優秀

県高校総会文芸部自然科学部門が、11月12日の2日間、和歌山市の和歌山信愛大学で行われ、日高中津分校の自然科学部同好会、中井啓太会長が、日高川のワケザメ（水生昆虫）の分布調査を発表し、最優秀賞を獲得した。日高高校の科学部も自然科学部門で優秀賞を受賞。来年に開催される国高校総会（文芸）全国大会に出場する。



伊佐の川でカワゲラを採取する日高中津の中井君(左)ら



全国総文に進む日高科学部(前列左から薬科君、川口君、橋本君)と物理部門3位の3人(後列左から阪本君、前田さん、中畑君)



中井君

中井 君

表の部で競った。発表生生物を継続して調布について。調査方でもいろいろと
は12分間以内と、和査現在の部員は会長 法は本流の船津、高津話した。
歌山大学や和歌山愛の3年生、中井君1人、尾地内、支流の伊佐の
大学の教授4人と学校だけで、顧問の北沢、猪口、寒川、上岡好合はボーター（パ
の顧問8人の計11人が教諭2人で22年11月初週の小計6地域で方ネル発表の部でも日
の内容や発表態度を1ヶ月から23年10月までのワケの幼虫、成虫、高川のケシホテルに
主権は県高校化連
で、県内8校から28
審査した。
1年間の研究成果を羽化殻にセントンについて発表し、優

チームが参加し、物 中津分校員総科部表した。
理・化学・生物 地学 同好会は2017年度 テーマは「日高川に
の4部門を1ター迄に満足し、日高の水おける方々を目の分地とし、200
ぎを使って採取。標高 秀賞を獲得した。
200以上に「山 化学部では日高高
校科学部の川口智也

君、薬科貴大君、橋本皇
征君いづれも2年の
チームが、寒天プラス
チックの実用化に向け
て、優秀賞を受賞。寒
天プラスチックは通常
のプラスチックの代用
品として期待されてい
るが、水に濡れること

15日の天気予報

 **和歌山県北部**
曇一時雨

予想気温	降水確率
最高 16℃	0～6時 10%
最低 8℃	6～12時 70%
波の高さ 1 m	12～18時 20%
	18～24時 0%

和歌山地方気象台発表

【日高港】

満潮	8:00	18:46
干潮	1:05	13:20
中 潮		
日出	6:30	日入16:56
月出	9:24	月入18:59
月 齢		2.2

[illegible]

中井君は最優秀のを使って装置を自作。受賞に、「頭が冴つて白結果炭酸カルウムで科学部の中畑達真しないなどの結果生になるくらいびつくりをぞく加えた寒うう君、阪本圭治郎君、前とめた。3人は半のししました。とてもれスナックが最も強が、田開蘭さん(いすれも)近畿論文の出場を正し(いす)話し、来強なことを書出(1年)が3位に入っている。

11.

日高川のカワゲラ研究で快挙
日高中津の中井君が最優秀賞

県高校
総合文化祭

県高校総合文化祭自然科学部門の研究発表が11、12日、和歌山信愛大であり、高川のワケザル目の分布地点で幼虫から成虫までの生息数を調査した。

「ようです」と話した。同愛好会を発足させた顧問の北又一弘教諭は「研究内容だけでなく、プレゼン力の高さをとても高く評価して頂

津中出身」が、全5部門
最も優秀な最優秀賞に輝
た。中井君は1年がかり
日高川本支流の6カ所で
ワゲラの生息数を調べ、
時間以上かけて河原の石を
5日間隔でひっくり返し、
11程度の種類を確認。標高
2000以上の地点を「山地」、
それ以下を「低地」と

で発表する中邦

最優秀賞を取るのはいすごいこと。本当によくやってくれた」と話し、来年岐阜県で開催の全国高校総合文化祭の出場権獲得を喜んだ。

に進学学校から26組が出場
た中で快挙を達成した。
同校には平成27年に発足
た自然科学部同好会があ
り、中井君は入学時から入
部して発表した。



県高校総合文

1人12分の持ち時間でス
ライドなど使って研究成果
を発表。中井君は持ち前の
ユーモアを交えながら堂々

A portrait of a young man with dark hair, wearing a red and black Nike jacket. He is looking slightly to the right of the camera. The jacket has a white Nike swoosh on the left chest and white stripes on the sleeves. The background is a plain, light-colored wall.



県高校総合文化祭で発表する中井君

と発表を行い、アレゼン点を獲得して最優秀賞に選出された。中井君は「先輩方の活動の積み重ねと、入学してから3年間、夢中に

なつてやつてきたことが
実つてとてもうれしい。ま
さか最優秀賞を取れると
思つていなかったのが夢の

「ようです」と話した。同愛好会を発足させた顧問の北又一弘教諭は「研究内容だけでなく、プレゼン力の高さをとても高く評価して頂いた。私学の生徒を抑えて最優秀賞を取るのはいすごいこと。本当によくやってくれた」と話し、来年岐阜県で開催の全国高校総合文化祭の出場権獲得を喜んだ。

備長炭焙煎珈琲が全国本戦へ

日経大のビジネスプラン選 日中津分校

植林でつなぐ未来と伝統

林業ベンチャーとコラボし、珈琲の売上でウバメガシの苗木を育て植林していくプロジェクトを連携し、開始した。林業全体の課題や和歌山県の森林の現状について学び、自分たちで植林体験に行くことや苗木をベースとして地域に森林について考えるための取組を計画している。

紀州備長炭焙煎珈琲

ウバメガシの苗木

ウバメガシの植林

紀州備長炭製作

本戦出場を勝ち取った中津分校の焙煎珈琲ビジネスプラン

（持続可能な開発目標）や消費者が社会的課題の解決や同課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うエシカル消費の学習にも励んできた。

焙煎珈琲の生産から販売を通じて、珈琲豆を発展途上国などと公正な取引（フェアトレード）で販売されている製品を使用するなどエシカル消費に取り組む、今年は夏の高校野球和歌山大会が行われる紀三井寺球場で珈琲を販売。珈琲豆の包装袋を分解可能なプラスチック製にしたり、球場で販売したコップやストローを竹製にしてSDGsとエシカル消費につなげた。

予選には全国から512案の応募があり、中津分校は今年4月からの取り組みを「珈琲販売で森林保護を」をテーマにしたビジネスプランとして日経大のコンテストに参加。「珈琲の売上で備長炭の原木となるウバメガシを植林し、未来に和歌山の伝統と自然を残していく」「珈琲豆はフェアトレードのものを使用し、パッケージや使用する容器は環境に配慮したもの、使用する水は地元の水を選んでいる」などをアピールし、8校8チームだけの本選出場を見事に勝ち取った。12月9日の本戦では2年生の室涼雅君、田口澁翔君、道代真蒼君、長井健一君の4人が発表して日本一を目指す。

中津分校が最優秀賞

高校生ビジネスプランコンテスト

日本経済大学（福岡）が主催するSDGs（持続可能な開発目標）に沿った高校生ビジネスプランコンテストの本戦が9日、オンラインで行われ、日高川町の日高中津分校が規格外の紀州備長炭を使った焙煎コーヒー販売活動の取り組みで最優秀賞を獲得した。県内では初めての快挙で、同校は「今後の活動の励みになる」と喜んでいる。

日高川

コンテストのテーマは「SDGs：のテーマは取り組み。コーヒー豆で生産されたコーヒー」変えよう。私たちの明日ミライ」で、持続可能な社会の構築に向けて地域や社会の課題を解決するビジネスアイデアを高校生から募集。国内外の512点の応募の中から8チームが本戦出場を決めていた。

中津分校のテーマは「珈琲販売で森林保護を」。販売規格外の紀州備長炭で焙煎したコーヒーを商品化し、売り上げを活用して備長炭の原木となるウバメガシを植林するというについても発展途上国豆が正当な価格で取り引きされた商品を使用。高校野球の県大会や地元の花火大会、イベント会場などで販売している。

発表はオンラインで行われ、2年生の室涼雅君、田口澁翔君、堂代真蒼君の3人がスライドを使いながらプレゼン。取り組み内容やコーヒーの売上数などを説明し、審査委員長からは「SDGsは実行することが大切。すでに実行されているところが素晴らしい」など高い評価を受けた。発表者の田口君は「最優秀賞を受賞できて大変うれしい。自分たちが取り組んできたプランを今後、さらに発展させていきたい」と話している。



左から堂代君、室君、田口君

森林の課題 ITで解決

中津分校生がアイデア考える

日高

日高川町のるアイデアを考える授
日高高校中津 業が行われた。
分校で20日、 災害リスクの低い森
1、2年生22人を対象 づくりに取り組む株式
に、森林の課題をIT 会社ソマノベース(田
(情報技術)で解決す 辺市)と第一生命情報



グループでアイデアをまとめて発表

システム株式会社(東
京)と連携した取り組
みで、両社の社員5人
が講師として訪れた。
授業は6グループに分
かれて行い、「IT×
森林課題」をテーマ
に、作業員の人手不足
や作業の危険性、森林
の減少などについて解
決策を各グループでま
とめて発表した。
講師のソマノベース
と第一生命情報システ
ムの社員が審査し、森
林作業の人手不足を解
消するため、作業の内
容をVRゴーグルで体
験してもらうアイデア
と、森林に親しみを
持つってもらうため、水
族館のような「森族館」
を建設するアイデアが
優秀賞に選出された。
ほか、ドローンを使っ
て森林作業の危険箇所
を上空から判断する内

容やAI(人工
活用した植林
アイデアもあつた